

兵庫教育大学上廣道徳教育アカデミー第 1 回フォーラム 研究発表等の概要

○アカデミー所員研究発表 概要

檜本由広：「子どもの『心が動く』を考える」

「心が動く」学校でありたいと願い、自身のアカデミーの活動をスタートさせた。道徳科の授業について、現場の皆様とともに考える中で、子どもの心が多様に動くために何が必要なのか、子どもの心をどう受けとめるべきなのか、動いた心をさらに生き方についての考えへと深めるためには何が必要なのかなどと、「問い」が深まるばかりであった。そもそも、子どもの「心が動く」とは、授業を担う教師の「熱」を何に向けるべきなのか。これらも大きな「問い」である。

活動を通して、ぼんやりとしているけれど求め続けたいと思えることを活動報告として、そして、現場の皆様と対話しともに考えたい視点として提案する。

下野厚子：対話により深める学び

道徳科の「対話的な授業」とはどのようなものなのだろうか。非常に難しい問題で、研修会でも多くテーマに取り上げられていることを考えると、授業をされる現場の先生方もいろいろ悩んでおられる様子がうかがえる。また、それが深い学びにつながったかとなると、さらに難しい課題である。「授業で対話を起こす」という事や、子どもたちが「対話から学ぶ」という点について、今後もずっと研究を重ねていかねばならないと考えている。

これまでの研究の具体的な取り組み状況と、「対話」に重点を置いた授業の試みの報告から、皆様のご意見を伺い、今後の研究の励みにしたいと考えている。

秋山博正：「道徳的価値を理解すること」の解明

道徳的価値について考える場合、まず「道徳的」という語の意味を明らかにする必要がある。道徳は、ある社会の構成員が自他の行為、態度、心情等（以下、行為等）に対する要求として共有する意識内容である。現実の行為等に対して、たとえば「誠実であるべし」という要求が発せられるのは、意識内に「誠実である在り方」が前もって理念としてあるからである。その理念が道徳的価値である。

各人が抱く道徳的価値という理念は、人間の行為等のうちの、少なからず「よきもの/よきこと」として評価された行為等から抽象・構成されたものであろう。

それならば、道徳的価値を理解するとはどういうことか。未知の道徳的価値という理念の理解は極めて困難である。私たちにできるのは、他者によって道徳的だと評価されているものやことを具体的に知り、それらに基づいて新たな道徳的価値の理念を構築することではあるまいか。しかし、それとて新たな道徳的価値を知ることにはすぎず、理解ではない。

道徳的価値とは、上述のように、私たちにその実現を要求するものである。だとしたら、道徳的価値の理解とは、それを単に知るのみならず、その要求に多少なりとも応答できたときに初めて成立することではあるまいか。

○シンポジウム【実践研究での発表テーマと概要】

山口佐和子先生

「テーマ」～道徳的価値について理解を深め、共に高め合う授業づくり～
「概要」

①教材分析を軸とした授業構想

「道徳アンケート」をもとに道徳的価値の理解についての児童の実態把握を行い、「教材分析シート」と「予想される児童の反応のスキーム」を作成し、授業構想を行う。

②インクルーシブ教育を目指した道徳科の授業づくり

「学習指導案」「板書計画」にインクルーシブ教育の視点を取り入れる。

③道徳科授業力向上を目指した校内研修

「道徳科授業参観シート」をもとに、一人一台端末を用いて情報を共有し、事後研究会や校内研修を行う。

河野雄司先生

「テーマ」生徒とともに考え、ともに悩む道徳科の授業
～生徒にとっての楽しさ・教師にとっての楽しさ～

「概要」

道徳科の授業では、内容項目について授業を通して考えていきます。

大人である教師にとっても内容項目によっては、難しいと感じることも少なくありません。

「教えなければならない」という考えから、「一緒に考えて悩む」ことを中心にすれば展開は大きく変わらないでしょうか。特に、中学生では無駄なことを省いて、シンプルな問いを一緒に考えられれば楽しさにつながらないでしょうか。

共に考えていきたいです。